

研究区分	教員特別研究推進（独創・先進的研究）
------	--------------------

研 究 テーマ	移民受け入れ国のデジタル利用の比較研究—外国人看護師・介護士の環流の視点から				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野 みちよ
	研究協力者	所属・職名	CEGLOS 客員研究員	氏名	アレソン・ヴィリョータ II
		所属・職名	ASA	氏名	サルヴァドール 千鶴
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野 みちよ

講演題目
外国人看護師・介護士受け入れにおけるデジタル技術の利用
研究の目的、成果及び今後の展望
研究の目的 本研究は、各場面におけるデジタル化が進んでいる今日、外国人の看護師・介護士の受け入れに関連する一連の場面に際して、デジタル技術がどのように活用されているのか、を明らかにすることを目的とした。すなわち、EPAにおける公募情報の周知、EPAの出発前日本語研修におけるオンライン授業の可能性、来日就業後における日本語習得および、国家試験準備におけるオンライン指導の有効性など、について検討した。 成果 1. 二国間協定に基づくEPAプログラムにおける外国人の看護師・介護士の受け入れに際して、従来通りの政府広報では情報周知が限定的であり、積極的なSNSの活用によって、応募者の増加が認められた。 2. 在日の就業者らが個人的に発信するSNSによる情報拡散が、公共圏・親密圏双方の情報の幅広い共有に貢献していることが認められた。一部のインフルエンサーやアカウントは、専門日本語の習得や、国家試験対策に関する情報を体系的に発信し、一定の効果を挙げている模様である。 3. コロナ期にオンラインで日本語研修を受けたEPA候補者らの国家試験合格率は低下したことが認められた。初心者外国語習得における対面指導の有効性が示唆された。 4. オンラインによる外国人に特化した国家試験対策の試みは、複数のプロジェクトで成果を上げている。同時に、質の向上と維持、および費用の抑制のバランスが課題である。 および今後の展望 1. 若手の研究者らを巻き込んだより包括的な研究を進めて、後進を育てる。 2. これまでの研究で得られた知見を体系的に整理して、出版物などの形で成果をより広く還元する。 3. 本プロジェクトメンバーたちは、当事者への聞き取りをウェブサイトで発信したり、当事者たち向けのセミナーやさまざまな情報をオンラインで提供したりなど、実践を行ってきたが、今後も継続する。 4. 引退看護師らを活用した、看護の専門日本語に従事する人材の育成およびそのシステム作りを目指す。 5. デジタルエスノグラフィの方法論の精査と理論化を進める。